

施策 7-3 スポーツ環境の整備

□ 目標

スポーツ関連施設の老朽化に適切に対応するとともに、ライフステージに応じた市民ニーズを踏まえ、安全かつ快適なスポーツ環境を提供します。

□ 現状と課題

スポーツ活動の場となる体育施設の多くが同時期に建設され、年々、老朽化が顕著に現れていくことから、ライフステージに応じた市民ニーズを的確に捉えた中で、体育施設を安全で快適な状態で提供できるよう計画的な修繕等に取り組んでいく必要があります。

また、東京オリンピックの機会を捉え、関連施策との連携を図りながら、新たな施設整備を進めていきます。

(体育施設の実態)

- 体育施設は、体育館の約 8 割 (18 施設) が築 25 年を経過しているなど、今後更に老朽化が進み、一斉に更新時期を迎えることから、施設の再配置を視野に入れながら、計画的に施設の維持補修等を進める必要があります。
- 体育施設の利用者数は、施設の性質によって異なりますが、一般体育館の場合、直近 5 か年の平均年間利用者数の最低は 473 人、最高は 88,535 人で、施設によって利用者数の偏りが大きいことから、施設の機能整備と併せて利用率の平準化に取り組む必要があります。
- 新潟県立武道館の建設や東京オリンピックの開催を見据え、競技人口の拡大やトップアスリートの育成強化を図るため、拠点施設や専門施設の整備拡充が求められています。

◆ 体育課所管施設及び学校体育施設の状況

(平成 27 年度末現在)

区 分	施設数	備考
体育館	22	
野球場	12	
テニスコート	11	
多目的広場	16	
プール	5	
その他	10	高田公園陸上競技場、大潟体操アリーナなど
学校体育施設	140	
体育館	74	内訳：中学校 (22)、小学校 (52)
グラウンド	66	内訳：中学校 (15)、小学校 (51)
合 計	216	

□ 施策の展開

■ 体育施設の安全性や快適性の確保

- 施設の老朽化の状況や利用人数、配置バランスなどを踏まえ、安全性を第一に、効率的・効果的な運用、機能拡充のための改修や整備を推進します。
- 施設の修繕や備品の交換等については、施設のグレードに基づき、大会や合宿等が開催できる拠点施設から優先的に取り組みます。

■ 体育施設の再配置の推進

- 競技人口の推移や利用者のニーズを踏まえ、利用者数の少ない体育施設にニーズの高いスポーツの練習設備を新たに設置するなど、利用者数の拡大に取り組みます。
- 老朽化が著しく、利用者が少ない体育施設は、地域における体育施設の配置バランスなどを考慮しながら、施設の再配置を行います。

■ 拠点施設・専門施設の整備

- 東京オリンピックなど国際大会で活躍できる体操のトップアスリートの育成強化を支援するとともに、東京オリンピックの事前合宿を始め、大会や合宿等のスポーツコンベンションの誘致による交流人口の拡大や市民の健康増進及び生涯スポーツの充実を図るため、(仮称)上越市体操アリーナの整備に取り組みます。

◆整備計画

年 度	(仮称)上越市体操アリーナ
平成 28 年度	基本設計
平成 29 年度	実施設計
平成 30・31 年度	建設工事
平成 31 年度	供用開始

- 拠点施設・専門施設については、大会等において各競技の中心的役割を担う施設であるため、計画的に施設の機能維持・充実を図ります。

— 上越市第2次総合教育プラン —

後期実施計画

<令和2年度～令和4年度>

令和2年2月
上越市教育委員会

基本施策7 地域が主体のスポーツ・レクリエーション活動の推進

施策7-1 生涯スポーツ活動の充実

□ 目標

スポーツ活動に対する市民への意識啓発に取り組むとともに、スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ等と連携して地域ぐるみのスポーツ活動の推進を図ります。

□ 目標を達成するための事業等

○スポーツ活動の普及推進（スポーツ推進課、オリンピック・パラリンピック推進室）

- ・幼児期からの運動習慣の形成を促すため、子どもが自ら運動に親しむ体力づくりプログラムを作成し、市内各地域に展開します。
- ・地域スポーツの推進役であるスポーツ推進委員と連携し、体力測定会や出前講座、各種スポーツ教室のほか、障害の有無によらずスポーツに親しむことができる機会の充実に取り組みます。
- ・上越市立上越体操場を活用し、体をコントロールする力を高める施設利用学習を実施するとともに、市民の健康維持増進に向けたスポーツ活動の充実に取り組みます。
- ・東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会におけるドイツのホストタウンとして、体操とパラリンピック柔道の事前合宿の受入れや交流事業を進め、「上越市ホストタウンサポーター制度」への参加などを通じて、市民がスポーツに対する関心や体を動かすきっかけづくりをするとともに、この大会を契機とした競技人口の拡大や競技力の向上、スポーツを「する・見る・支える」という意識啓発につなげ、生涯スポーツ活動の推進を図ります。
- ・全国高等学校総合体育大会など全国規模の大会を誘致し、質の高い試合を観戦することにより、市民のスポーツ意欲の向上に取り組みます。

○市スポーツ協会、各種スポーツ団体への支援（スポーツ推進課）

- ・市民が気軽に参加できる教室や大会などを開催する市スポーツ協会を始め、各種スポーツ団体が安定的に活動をしていくための支援をします。

○総合型地域スポーツクラブの育成・支援（スポーツ推進課）

- ・地域のまちづくり団体や市スポーツ協会と連携し、総合型地域スポーツクラブの育成や活動の活性化を支援します。

未設置地域：大島区、牧区、吉川区、清里区、

旧上越市の北諏訪、高土、津有北部以外の地域

- ・各総合型地域スポーツクラブの連携が一層進むよう活動を支援します。

□ 成果指標

評価内容	令和2年度	令和3年度	令和4年度
スポーツイベントの参加率 ※参加率＝市、市スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ等が主催する大会・教室等の延べ参加者数/人口 <現状値：H30> 110.2%	100%以上	100%以上	100%以上

評価内容	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
市内の総合型地域スポーツクラブ、 市スポーツ協会に所属する会員数 〈現状値：H30〉 24,743 人	26,400 人以上	26,500 人以上	26,600 人以上

□ 目標

各種スポーツの競技人口を踏まえつつ、関連競技団体と連携を図りながらアスリート育成強化等に取り組み、スポーツ競技力の向上を図るとともに、2020年東京オリンピック・パラリンピック（以下「東京オリンピック」という。）の開催の機会を捉え、関連施策と連携を図りながら、市民によるスポーツ活動の推進と競技力の向上を図ります。

□ 目標を達成するための事業等

- スポーツ競技力の向上、アスリート育成強化の推進（スポーツ推進課）
 - ・市スポーツ協会が指定するジュニアトップアスリート育成強化事業指定競技団体と新潟県が指定する地域ジュニア競技スポーツクラブ育成事業指定競技団体をはじめ、各種競技団体の青少年から成人までのアスリートについて、オリンピックを始めとする国際大会や全国大会等で活躍できる選手の育成強化に取り組みます。
 - ・小・中学校の課外活動に専門的な技術指導ができる指導者を派遣し、児童生徒の競技力の向上に取り組みます。
 - ・国際大会や全国大会等に出場する当市に居住する優秀な選手等に対して奨励金を交付し、市民の代表としての意識の高揚を目指します。
 - ・市スポーツ協会や各競技団体と連携し、日本体育大学等から競技指導者を招致し、指導者クリニックを行うなど、指導技術の向上に取り組みます。

□ 成果指標

評価内容	令和2年度	令和3年度	令和4年度
中高生の北信越大会と小・中高生の全国大会出場者数 〈現状値：H30〉 580人	464人以上	464人以上	464人以上
ジュニアトップアスリート育成強化事業指定競技種目における全国大会出場者数 〈現状値：H30〉 148人	103人以上	103人以上	103人以上

施策7-3 スポーツ環境の整備

□ 目標

スポーツ関連施設の老朽化に適切に対応するとともに、ライフステージに応じた市民ニーズを踏まえ、安全かつ快適なスポーツ環境を提供します。

□ 目標を達成するための事業等

○ 体育施設の安全性や快適性の確保（スポーツ推進課）

- ・施設の老朽化が年々進んでいくことから、安全性を第一に優先順位を付け、計画的な修繕に取り組みます。
- ・施設のグレードに基づき、大会や合宿が開催できる拠点施設から優先的に設備や備品の機能維持に取り組みます。
- ・インターネット予約による施設情報の発信や申請方法の簡素化、定期利用団体の年間施設予約を実施するなど、利便性の向上に取り組みます。

○ 体育施設の適正配置の推進（スポーツ推進課）

- ・利用状況や将来の人口減少などを踏まえ、体育施設の適正配置計画を策定し、計画的な統廃合、整備に取り組みます。

□ 成果指標

評価内容	令和2年度	令和3年度	令和4年度
体育施設の1施設当たりの年間延べ利用者数			
【体育館】 〈現状値：H26～30 平均〉 24,320 人/施設	直近5年の平均利用者数以上	直近5年の平均利用者数以上	直近5年の平均利用者数以上
【野球場】 〈現状値：H26～30 平均〉 7,356 人/施設	直近5年の平均利用者数以上	直近5年の平均利用者数以上	直近5年の平均利用者数以上
【多目的広場】 〈現状値：H26～30 平均〉 5,930 人/施設	直近5年の平均利用者数以上	直近5年の平均利用者数以上	直近5年の平均利用者数以上
【テニスコート】 〈現状値：H26～30 平均〉 5,406 人/施設	直近5年の平均利用者数以上	直近5年の平均利用者数以上	直近5年の平均利用者数以上

第2次総合教育プラン後期実施計画に基づく 令和2年度の実績及び令和3年度の取組

基本施策7 地域が主体のスポーツ・レクリエーション活動の推進

施策7-1 生涯スポーツ活動の充実

□ 目標

スポーツ活動に対する市民への意識啓発に取り組むとともに、スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ等と連携して地域ぐるみのスポーツ活動の推進を図ります。

□ 成果指標

評価内容	目標	実績
スポーツイベントの参加率 ※参加率=市、市スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ等 が主催する大会・教室等の延べ参加者数/人口 <現状値：R1・105.7%>	100%以上	39.5%
市内の総合型地域スポーツクラブ、市スポーツ協会に所属する 会員数 <現状値：R1・25,228人>	26,400人以上	23,166人

□ 評価

新型コロナウイルス感染症の影響によりスポーツイベントやスポーツ活動が思うように実施できず、成果指標に掲げた数値目標を達成することが出来なかった。

こうした中、令和2年度は、新しい生活様式を取り入れたスポーツ活動に取り組み、感染症対策を講じた様々なスポーツ教室やスポーツ推進委員による出前講座など、コロナ禍においてもスポーツの機会を提供することができた。

また、延期となった東京オリンピック・パラリンピックについては、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、学校訪問授業やオンライン交流などの活動を通じて、本大会に向けた機運をつなぐ取組を実施することができた。

□ 関連事業等の実績

(1) スポーツ活動の普及推進

① スポーツ推進委員の活動を促進

- ・ スポーツ推進委員と連携した取り組みの充実

活動内容		実施回数	参加者数(延べ)
出前講座	ニュースポーツ教室など	64	1,273
	地域での健康体操など	10	325
体力測定会	市民向け体力測定会	中止	中止

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、6月30日までスポーツ推進委員の活動を中止。

② 上越体操場ジムリーナを活用したスポーツ活動の推進

- ・ ジムリーナの設備等を活用したスポーツ教室を7月から実施

教室名	日程	参加人数 (延べ参加人数)
トランポビクス教室 (1期)	①7月7日～9月15日 (全10回)	8人 (延べ74人)
	②7月7日～9月15日 (全10回)	9人 (延べ53人)
ストレッチ体操教室 (1期)	①7月8日～9月16日 (全10回)	10人 (延べ83人)
	②7月16日～9月24日 (全10回)	6人 (延べ49人)
スローエアロビクス教室 (1期)	7月10日～9月18日 (全10回)	8人 (延べ74人)
ノルディックウォーキング教室	8月19日～9月30日 (全12回)	7人 (延べ58人)
スラックライン教室	10月6日～11月19日 (全12回)	24人 (延べ237人)
上越・健康運動プログラム (J-Wellness) (1期)	10月27日～12月10日 (全12回)	4人 (延べ35人)
トランポビクス教室 (2期)	11月10日～3月2日 (全12回)	15人 (延べ152人)
ストレッチ体操教室 (2期)	11月11日～3月3日 (全12回)	14人 (延べ145人)
スローエアロビクス教室 (2期)	11月13日～3月5日 (全12回)	15人 (延べ155人)
チャレンジアクロバット教室	11月15日～12月24日 (全10回)	20人 (延べ174人)
キッズアスリート教室	12月1日～12月24日 (全8回)	11人 (延べ72人)
上越・健康運動プログラム (J-Wellness) (2期)	2月16日～3月30日 (全12回)	10人 (延べ92人)
合計		161人 (延べ1,453人)

③ 子どもの体力づくり運動の普及

幼児期からの運動や体力づくりに取り組んでもらうため、令和2年2月に策定した「運動あそびプログラム」の普及に取り組んだ。

- ・ 親子を対象とした親子運動あそび教室の開催 (12月19日、26日の2回)
- ・ 市ホームページへ動画の掲載
- ・ 公立保育園に通う園児の保護者向けに発行されている「ほけんだより」での周知 (令和2年11月号、令和3年2月号)

④ 東京オリンピック・パラリンピック関連事業 … 資料1

- ・ 2021年に延期された本大会に向け、ドイツ競技団体と合宿日程等の調整を行うとともに、国による新型コロナウイルス感染症対策調整会議等において検討が進められている対策を注視しながら、当市における合宿等の交流事業について検討を進めた。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、集客イベント等は実施できないものの延期となった期間を活用し、スポーツ義足体験授業など学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の推進、オンラインによる交流活動、SNSなどによる情報発信、ドイツをホストタウンとする自治体との連携事業などを通じて、本大会に向けた機運をつなぐ取組を実施した。

⑤ 全国高等学校総合体育大会の開催準備

- ・ 令和3年度全国高等学校総合体育大会の上越市実行委員会を令和2年6月19日に設立し、開催準備に着手した。
- ・ 大会運営に係る各種要項・計画等の作成、競技役員等の養成及び各種広報・啓発活動等に取り組んだ。

<競技日程及び競技会場>

弓道 令和3年7月29日(木)～8月1日(日) 謙信公武道館

体操競技 令和3年8月9日(月)～8月11日(水) リージョンプラザ上越

(2) スポーツ大会・団体等への支援(補助金・交付金)

- ・ 高田城ロードレース大会(中止) 準備経費を助成
- ・ えちご・くびき野100kmマラソン(中止) 準備経費を助成
- ・ 上越市民スポーツ祭(開催) 準備経費を助成
- ・ スポーツ少年団・アクティブスポーツ団体活動経費を助成
- ・ 上越市スポーツ協会活動経費を助成
- ・ ビーチバレーボール大会(中止)
- ・ ビーチラグビー大会(中止)
- ・ 新潟県駅伝競走大会(中止)
- ・ 居多まつり武道大会(中止)

(3) 総合型地域スポーツクラブの育成・支援

- ・ 11月14日(土)に総合型地域スポーツクラブ研修会を実施し、各クラブの資質向上を図るとともに、市内12クラブが一同に会すことにより、クラブ間の連携を促した。

【実施内容】 テーマ:「コロナ禍におけるスポーツイベント等の危機管理」

講師: TM 共同法律事務所 弁護士 渡部 和哉氏

- ・ 総合型地域スポーツクラブ未設置区域である、牧区と大島区を対象に市主催教室である「いきいきスポーツ教室」を開催した。

【牧区】 7月7日～10月27日の毎週火曜日実施

ノルディックウォーキング、水中ウォーキング、トランポビクス

【大島区】 10月16日～11月20日の毎週金曜日実施

ノルディックウォーキング、囲碁ボール

□ 令和3年度に向けた課題

- ・ 市民のスポーツや健康に対する意識の高揚を図り、生涯スポーツを推進していくため、上越体操場などを活用し、各種教室やイベントなどを継続的に開催していく必要がある。
- ・ また、障害の有無等を問わず、広く市民がスポーツに参画できる環境を整備していくため、スポーツ推進委員会、身体障害者連絡協議会、レクリエーション協会などが連携した取組を継続していく必要がある。
- ・ 幼児期からの運動や体力づくりを普及していくため、幼児や児童を対象とした運動教室の開催や指導者育成のための講習会を継続していく必要がある。
- ・ 市民が身近な地域でスポーツに親しむことができるよう、地域住民による自主的・主体的に運営されるスポーツクラブの支援を継続するとともに、スポーツクラブの無い地域ではスポーツ教室を開催するなど、地域でのスポーツ活動の担い手の育成を図る必要がある。
- ・ ドイツチームの合宿受入れなどの交流事業について、国などが検討を進めている東京大会における新型コロナウイルス感染症対策を踏まえながら、本市における対策の検討を進める必要がある。
- ・ 令和3年度全国高等学校総合体育大会（弓道・体操競技）の円滑な大会運営に向けて、全国高体連が策定した新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する基本方針及び全国高体連競技専門部が検討を進めている具体的方策を踏まえ、開催準備を進めていく必要がある。

□ 令和3年度関連事業

- 上越体操場「ジムリーナ」を活用したスポーツ活動の推進（760千円）
 - ・ 体操器具等を活用したスポーツ教室を開催する。
- スポーツ大会・教室、各種団体等の支援【補助金・交付金】（24,411千円）
 - ・ 補助金・交付金の交付により各種団体等の活動を支援する。
- スポーツ推進委員の活動支援（4,590千円）
 - ・ 市民体力測定会やスポーツ・レクリエーションに関する出前講座など、地域と連携した事業を実施する。
 - ・ 身体障害者連絡協議会やレクリエーション協会などと連携したスポーツイベントを開催する。
- 子どもの体力づくり運動の普及（129千円）
 - ・ 運動あそびプログラムを活用した親子運動あそび教室を実施する。
 - ・ 保育士やスポーツ推進委員等を対象とした指導者向け講習会を実施する。
- 総合型地域スポーツクラブの育成・支援（149千円）
 - ・ 総合型地域スポーツクラブのスポーツ指導者の指導力の向上を図るとともに、クラブ間の情報共有や連携を促すため、研修会を開催する。
 - ・ 総合型地域スポーツクラブがなく、スポーツに親しむ機会が乏しい地域において、スポーツ教室を開催し、地域でのスポーツ活動を担う人材・団体の育成につなげる。

- 東京オリンピック・パラリンピック関連事業（73,414千円）
 - ・ 2021年に開催される本大会に合わせ、7月にドイツ体操チームの事前合宿の受入れを行う。
 - ・ パラリンピック柔道チームの事前合宿の受入れを契機としたドイツとのスポーツ交流を継続させるため、ドイツU-18柔道チームの合宿受入れを行う。
 - ・ 事前合宿の合宿受入れに当たっては、国などが示す手引きに基づくマニュアルを作成し、新型コロナウイルス感染症対策を実施する。

<合宿受入れ日程等>

	ドイツ体操チーム事前合宿	ドイツU-18柔道チーム
合宿日程	7月9日（金）～7月18日（日）	11月
練習会場	上越市立上越体操場「ジムリーナ」	新潟県立武道館「謙信公武道館」
予定人数	21人	18人

- ・ 当市においても東京2020オリンピック聖火リレー及びパラリンピック聖火フェスティバルを実施するほか、本大会に出場する上越市出身選手を応援するため、報告会などを実施する。
- 全国高等学校総合体育大会の開催（26,046千円）
 - ・ 令和3年度全国高等学校総合体育大会において、当市が受け持つ競技種目別大会の弓道と体操競技を開催する。
 - ・ 競技種目別大会の開催に向け、令和2年6月に設立した上越市実行委員会が、新潟県実行委員会、高等学校体育連盟、各競技専門部、競技団体、その他関係機関・団体等と連携・調整を図り、開催準備等を進めている。

<競技日程及び競技会場等>

	弓道	体操競技
競技日程	7月29日（木）～8月1日（日）	8月9日（月）～8月11日（水）
競技会場	新潟県立武道館「謙信公武道館」	リージョンプラザ上越
練習会場等	[練習会場] ・新潟県立武道館「謙信公武道館」弓道場（近的）	[サブ会場] ・上越市立上越体操場「ジムリーナ」 [練習会場] ・上越市教育プラザ体育館（男子） ・上越市立大潟体操アリーナ（女子）

- 新型コロナウイルス感染症対策等について
 - ・ 全国高等学校体育連盟の「令和3年度全国高等学校総合体育大会実施時における新型コロナウイルス感染拡大防止に関する基本方針」に則り、開催準備を進めている。
 - ・ 全国高等学校体育連盟の開催方針に基づき、無観客での開催となったことから、試合の様子がインターネットでライブ配信される予定であり、公式サイトでの視聴を広く周知していく。
- その他
 - ・ 当市の開催種目の弓道・体操競技では、5月～6月に開催された新潟県高等学校総合体育大会において県予選が行われ、市内高校からも全国高校総体への出場が決定している。
 - ・ このほか、地元高校生は、大会の競技・運営補助員として支える立場から大会運営に携わる。

1 ユニバーサル・ラン〈スポーツ義足体験授業〉の実施（東京2020公認プログラム）について

- (1) 実施目的 スポーツ義足の体験や座学を通じて、児童が心のユニバーサルを学び、多様性への理解を深めることを目的として、東京2020大会のゴールドパートナーである株式会社LIXILが全国の小学校において実施
- (2) 実施日等 令和2年11月12日（木）、三郷小学校（5,6年生27人）
- (3) 実施内容 講師に短距離種目で東京パラリンピックへの出場を目指している山下千絵さん（SMB C日興証券株式会社）をオンラインで迎え、義足に関する授業とスポーツ義足の体験授業を行った。



【義足について説明】



【スポーツ義足の体験】

2 国際交流員（CIR）による学校訪問授業、出前教室等の実施について

○学校訪問授業について

- (1) 実施期間 学校の臨時休業の影響を踏まえ、2学期を中心に実施
- (2) 実施内容 小学校、高等学校を訪問し児童生徒に向けた授業を実施
 - ・ドイツのまち・学校生活・遊び・食文化・言葉に関する授業
 - ・ドイツの学校とのオンライン交流及び事前学習授業
 - ・ドイツ料理をテーマとした授業及び給食での交流
 - ・高校生への国際理解講座
- (3) 実施校 飯小、戸野目小、大町小、直江津小、南川小、附属小、明治小、新井高校



【ドイツの学校とのオンライン交流授業の様子】



【ドイツの学校生活に関する授業の様子】

○公民館講座について

- (1) 実施時期 令和2年11月～令和3年2月（3回）
- (2) 実施内容 ドイツ文化を身近に感じてもらうため、親子でドイツの祭りについて学び、クリスマスの装飾などの工作を実施
- (3) 参加者 親子8組



【装飾の工作の様子】

3 SNSやメディアを活用した情報発信について

- (1) 実施目的 市民の皆さんにドイツやオリンピック・パラリンピックのことを知ってもらい、親しみを持ってもらうため、SNSや地元メディアを活用してドイツ文化情報やドイツチームの動向などの情報を発信
 - ・Facebook 国際交流員がドイツ文化やドイツチームの動向などの情報を発信
 - ・Instagram 写真を中心に事前合宿や交流事業等のホストタウン事業の情報を発信
 - ・YouTube ドイツ体操チームへの応援動画等を掲載して情報を発信
 - ・J C V 国際交流員が「ヤニックのドイツ紹介」コーナーに出演しクイズ形式で文化を紹介



【ドイツ体操チームへの応援メッセージ動画（YouTube）】



【ヤニックのドイツ紹介（JCV）】

4 ドイツをホストタウンとする自治体との連携した取組（ドイツ横連携会議）について

- (1) 実施目的 ドイツをホストタウンとする全国24自治体が、東京2020大会に向けたホストタウンとしての機運を高めることを目的として、興味・関心の高いテーマを情報共有し、連携した企画を実施
- (2) 参加団体 岩手県雫石町、山形県東根市、山形県鶴岡市、群馬県沼田市、千葉県旭市、東京都文京区、東京都青梅市、山梨県山梨市、愛知県豊橋市、兵庫県豊岡市、岡山県真庭市、徳島県、徳島県鳴門市、徳島県那賀町、福岡県北九州市、福岡県田川市、長崎県、長崎県島原市、熊本県熊本市、宮崎県、宮崎県宮崎市、宮崎県延岡市、宮崎県小林市、上越市
- (3) 実施内容
 - ①全国一斉ドイツウィークの実施
 - ・令和3年1月25日（月）から31日（日）に当市を含む10自治体が参加
 - ・ドイツ関連図書コーナーの設置・・・（高田図書館など4カ所）
 - ・ドイツ料理の提供・・・・・・・・・・（うみがたり内レストラン）
 - ・ドイツの工作ワークショップ・・・（国際交流員との歓談会内）



【ドイツ関連図書コーナー（直江津図書館）】



【ドイツの工作ワークショップ】

②その他の取組

- ・郵便局及びモスバーガーでドイツホストタウンをPRするポスター、トレーマットを使用
- ・WEB上にドイツホストタウンマップを掲載し、各自治体の活動を周知
- ・メーリングリスト、SNS共通ハッシュタグによる情報共有・発信

第2次総合教育プラン後期実施計画に基づく 令和2年度の実績及び令和3年度の取組

基本施策7 地域が主体のスポーツ・レクリエーション活動の推進

施策7-2 競技スポーツの発展

□ 目標

各種スポーツの競技人口を踏まえつつ、関連競技団体と連携を図りながらアスリート育成強化等に取り組み、スポーツ競技力の向上を図るとともに、2020年東京オリンピック・パラリンピック（以下「東京オリンピック」という。）の開催の機会を捉え、関連施策と連携を図りながら、市民によるスポーツ活動の推進と競技力の向上を図ります。

□ 成果指標

評価内容	目標	実績
中高生の北信越大会と小・中・高生の全国大会出場者数 〈現状値：R1・471人〉	464人以上	106人
ジュニアトップアスリート育成強化事業指定競技種目における全国大会出場者数 〈現状値：R1・140人〉	103人以上	7人

□ 評価

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、北信越大会や全国大会が相次いで中止となったことから、成果指標に掲げた目標を大幅に下回った。
- ・ 各種スポーツ競技団体は、目標とする上位大会が中止になる中、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、選手の育成強化に取り組んだ。

□ 関連事業等の実績

(1) スポーツ競技力の向上、アスリート育成強化の推進

「全国・世界」で活躍できるトップアスリートを育成するために、上越市が一般財団法人上越市スポーツ協会及びスポーツ協会加盟団体・学校関係者と連携を図りながら年齢や学校卒を超えた一貫指導体制を整備することを通して、ジュニア選手層の発掘・育成及び優秀選手の強化に取り組む。

① ジュニアトップアスリート育成強化事業（補助金交付額：2,300千円）

- ・ 指定競技種目：体操、陸上、バレーボール、山岳、硬式野球、スキー
- ・ 活動状況等：各競技6月から強化練習等を再開（指定強化選手123人）
- ・ 大会実績：野球は9月27日に新人戦、体操・バレーボール・山岳は10月に各種大会を実施

② 地域ジュニア競技スポーツクラブ育成事業（補助金交付額：600 千円）※県

- ・ 指定競技種目：空手道
- ・ 活動状況等：6月から強化練習を再開（指定強化選手 61 人(小学性 35 人、中学生 10 人、高校生 16 人)、指導者 7 人)
- ・ 大会実績：北信越高等学校空手道新人大会（11 月開催、女子団体形で 2 位）
全国高等学校空手道選抜大会（3 月開催、女子団体形 1 回戦敗退）
彩の国杯全国中学生空手道選抜大会（3 月開催、男子個人組手 2 回戦敗退、女子個人組手 2 回戦敗退）

③ ジュニアスポーツクラブ育成事業（補助金交付額：1,170 千円）

ジュニア層のスポーツ振興を促進するため、スポーツ教室や選手強化等を計画的に実施し、競技人口の拡大を図る。

- ・ 活動状況等：各種教室等を 6 月から再開（17 団体）

④ スポーツアスリート育成強化事業（補助金交付額：180 千円）

上越市を拠点に国際的、全国的な活躍ができるアスリートの育成に取り組む。

- ・ 活動状況等：6 月 27 日(土)、28 日(日)、10 月 3 日(土)、4 日(日)に外部指導者を招いて、上越マリンドリブリーズ（ビーチバレー）の強化練習会を実施

⑤ スポーツ振興奨励金（交付額：580 千円、36 件）

国際大会や全国大会等に出場する選手や団体に対して奨励金を交付し、市民のスポーツに対する意識の高揚を図る。

(2) スポーツ活動サポート事業

小学校の課外活動、中学校の部活動に専門的な技術指導ができる指導者を派遣し、児童・生徒の競技力の向上に取り組む。

【スポーツ活動サポート事業実施状況】

区分	派遣校数	派遣依頼種目	派遣数
小学校	4 校	陸上・ダンス・クロスカントリースキー	18 回
中学校	17 校	アルペン・クロスカントリースキー、柔道、ソフトテニス、卓球、ダンス、軟式野球、バドミントン、バレーボール、陸上、剣道	1,023 回